

令和元年第3回北海道議会定例会〔予算特別委員会・建設部所管〕開催状況

開催年月日 令和元年9月27日(金)
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
 担当部課 建設部建設政策局建設政策課
 建設部土木局道路課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 公共土木施設の長寿命化等について</p> <p>(一) 橋梁の老朽化の現状と見通しについて 道は、公共土木施設等に関し、2015年にインフラ長寿命化計画を策定し、長寿命化に取り組んでいるものと承知をしております。15年の予算委員会の際に、50年を経過した橋梁について、わたくし質問させていただきまして、道道と市町村道を合わせて1,900橋となっており、10年後には7,400橋へ、シェアでいうと7%から29%へ激増すると見込んでおられました。4年たって、50年を経過した橋梁と、さらに10年後の見通しというのはどうなっているのか伺います。</p> <p>今後10年で1/3以上が50年を経過した橋梁になると、今後も増加傾向が続くということだと思います。</p> <p>(二) 通行止めの状況について 市町村道を含めて、通行止めの措置をとっている橋梁の状況というのをあわせて伺います。</p> <p>(三) 長寿命化対策と維持管理予算の推移について 50橋以上が年間通行止措置をとって、廃止も検討するという状況だということなんですけれども、質問した当時、当時の知事は「高度成長期に整備された橋梁の老朽化に対し、トータルコストの縮減、長寿命化対策を着実に進めていかなければならない」と答えていました。どのように取り組んできたのかお聞きするとともに、維持予算についても併せてお示しを願いたいと思います。</p> <p>道路がなくなっているわけではないのに、維持管理予算はピーク時の6割程度にとどまっていると。整備予算の方は確保されているようなんですけれども、予算措置としてもなかなか厳しいという状況だと思います。</p> <p>(四) 市町村に対する技術・体制面での支援について 通行止めとなっているのは市町村道だけで、道道はありませんが、市町村では財政難と技術者不足等が課題とされておりました。そこで解決のために道はどのように支援をしていくのか、サポートしていくのか、長寿命化の着実な取組を進めていくのか伺いたいと思います。</p> <p>市町村は職員数が減っていますから、大変厳しい状況だと思いますので、道としてもしっかりと効率的な支援をよろしくお願したいというふうに思います。</p>	<p>○高速道・市町村道担当課長 関 俊一 橋梁の老朽化の現状などについてではありますが、平成31年3月末時点で、建設後50年を経過した橋梁は、道管理が約800橋、市町村管理が約2,300橋、合わせて約3,100橋となっており、この4年間で約1,200橋増加しております。</p> <p>さらに、10年度には、道管理が約2,100橋、市町村管理が約7,300橋、合わせて約9,400橋となり、建設後50年を経過した橋梁の割合は、12%から36%に増加する見通しとなっているところでございます。</p> <p>○高速道・市町村道担当課長 関 俊一 通行止めの橋梁についてではありますが、平成31年3月末時点で、通行止めとなっている橋梁は52橋であり、その全てが市町村管理となっているところでございます。</p> <p>そのうち17橋は、修繕・架替を実施、又は予定しており、その他の橋梁は、撤去も含めて検討中と聞いているところであります。</p> <p>○道路課長 佐藤 匡之 長寿命化の取組についてではありますが、道では、橋梁の老朽化対策について、トータルコストの縮減と予算の平準化を図るため、平成21年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、路線の重要性や損傷の程度などを勘案して、計画的な修繕に努めてきたところであり、さらに、損傷が大きくなる前に適宜補修を行う「予防保全型」への移行を進めているところでございます。</p> <p>また、公共土木施設全体の維持予算につきましては、平成10年度の当初予算の約146億円をピークとし、その後、年々減少し、平成25年度には、約64億円となりましたが、その後増加し、本年度は約82億円となっているところでございます。</p> <p>○土木局長 白石 俊哉 市町村に対する支援についてではありますが、道といたしましては、今後、市町村道においても、老朽化が進み、対策を必要とする橋梁が増大すると見込まれますことから、道が参画する北海道道路メンテナンス会議を通じて、市町村職員を対象とした点検講習会の開催や、近接する複数市町村の点検業務の一括発注など、技術面でのサポートを行うほか、国に対し、老朽化対策予算の別枠確保を要望するなど、引き続き市町村が長寿命化修繕計画に基づき、計画的な修繕が行えるよう、支援に努めてまいりたいと考えております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(五) 公共施設の老朽化対策について 長寿命化対策とともに、必要な更新というの円滑に行いながら、地域事情に即して、管理のあり方について検討も必要と考えるところです。今後の公共施設の老朽化対策について伺います。</p> <p>まだピークは先のようなので、着実に進めるように指摘します。</p>	<p>○建設政策局長 阿部島 啓人 今後の公共土木施設の老朽化対策についてでございますが、道では、今後、老朽施設が増加し、対策に要する経費の増大が見込まれますことから、「北海道インフラ長寿命化計画」の個別施設計画に基づきまして、点検・診断から補修、更新といった、メンテナンスサイクルの構築を目指すとともに、トータルコストの縮減や更新費用の平準化に取り組むこととしているところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後とも、地域における実情を踏まえながら、道民の安全・安心な暮らしが守られますよう、必要な予算を確保するなどして、国や市町村と連携し、長寿命化計画の着実な推進に取り組んでまいります。</p>